明治小

主体的に学び、考えを深め合う子の育成

～学習方略（まなびかた）を活用した授業を通して～　（３年計画の２年次）

校長　　八嶋　俊次

１　研究主題について

本校では、教育目標に「豊かな心と学ぶ意欲をもち、たくましく生きる子」、努力目標に「よく考え学習する子、思いやりをもつ子、体をきたえる子」を掲げ、教育活動を展開している。また、今年度の学校目標を「笑顔があふれ、生き生きと活動する学校～子どもが笑顔で家に帰る～」とした。

本校の児童は、明るく素直で、学習意欲の高い児童が多く、与えられた課題や指示されたことには前向きに取り組んでいる。一方、基礎学力の個人差が大きいことや話を正しく聞き取る力、話す力が不足している点、また、児童の主体性が十分ではない点に課題がある。そこで、児童が学び方を活用し、人とつながりながら協働的に学ぶ授業づくりを研究していく必要があると考えた。

昨年度は、問題・教材との対話、他者との対話、自分との対話のある授業を工夫することにより、「主体的に学び、考えを深め合う子」の育成を図ってきた。それにより、やや抵抗感のある問題を提示すること、児童の表明した言葉をつなげて課題設定をすることが「主体的に学ぶ」意欲を高める条件になると分かった。また、学習方略（まなびかた）※を取り入れることにより、それまで受け身になりがちでアウトプットが得意ではなかった児童にとっても、考えを表明しやすくなったり、全体としても共有しやすくなったりし、それらが自分の考えを深めさせることにつながるということが分かった。しかし、課題設定の仕方や共有のさせ方によっては、児童の意欲を減退させてしまう場合もあり、課題が残った。

そこで、今年度は昨年度までの研究の成果の上に、何を提示して、何を考えさせるのか、どこまで話させるのかのバランスをとり、児童の意欲を持続させるとともに、児童自身が「こうすればできる」という学習方略を活用できるような授業づくりを進めていきたい。教科としては、国語、社会、理科、算数、生活とする。

※本校においては「まちがいを大切に」「なろうミニ先生」「一言コメントをしよう」「かこう図や絵」「大切なことばは何」の５点の頭をとって、「まなびかた」とし、児童にも意識させていく

２　研究のねらい

児童の「主体的に学び、考えを深め合う力」を育てるための効果的な指導の工夫について授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

知的好奇心を高め、思考が動き出す動機づけから、課題設定へつなげる工夫をしたり、学習方略を活用して考えを深めさせるための工夫をしたりすることにより、「主体的に学び、考えを深め合う力」を育むことができる。

４　研究内容

(1)知的好奇心を高め、思考が動き出す動機づけから、課題設定へつなげる工夫

(2)学習方略（まなびかた）を活用して、考えを深めさせるための単元構成や展開の工夫

５　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等	概要
6	２２	３学年公開授業 まいごのかぎ 授業者　大嶌　禎子	出来事や主人公の気持ち、考え方が表れているところに一人でサイドラインを入れたり、全体で大切な言葉について話し合ったりする学び方を続けることによって、登場人物の考え方などについて捉えることができた。

7	6	４学年授業研究 垂直・平行と四角形 授業者　中村　好秀	２直線に平行な補助線をかき加え、図から分かることやキーワードをかき込んだり、同じ大きさの角に印や色をつけたりする活動を行うことによって、角の大きさを求めるまでの手順を説明することができた。
9	6	５学年公開授業 倍数と公倍数 授業者　田村　享太	数の変化を数直線図に書き入れることや、公倍数から辺の長さが何cmのとき正方形を作ることができるのかを説明させる学び方を取り入れることによって，数の構成について考察する力を養うことができた。
9	２７	２学年公開授業 どうぶつ園のじゅうい 授業者　沼舘　優子	教材文に線を引くことにより、獣医がその仕事をするわけや工夫がどこに書いてあるか自分の考えをもたせることができた。友達にインタビューをすることよって、考えを確かなものにさせることができた。
１１	1	１学年公開授業 じどうしゃくらべ 授業者　森山　優	「しごと」には赤線、「つくり」には青線を引かせることによって、接続詞をはさんで２つの問いに対する答えが書かれていることに気付かせることができた。また、自動車によって「つくり」が異なるのは、それぞれの「しごと」に関係していることを、視覚的に理解することができた。
１１	7	６学年授業研究 比とその利用 授業者　井畑八千代	単元を通して、一つ一つの場面に即して、自分の考えを図や絵で表現したり、筋道立てて説明したりしながら割合が比で表された問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めると共に生活や学習に活用しようとする態度を養うことができた。

(2)一般研修

月	日	内容・講師・概要等
7	２８	「デジタル・シチズンシップ～善き使い手になるための学び～」 講師：メディア教育研究室代表理事　今度珠美氏
１１	１５	「児童が自ら学習方略を活用する授業づくりについて」 講師：広島大学大学院准教授　深谷達史先生
１２	２０	AI ドリルについて　講師：モノグサ株式会社　水野浩之氏
1	１１	デジタル教材について　講師：新学社　販売促進課　佐野氏

６　研究の成果

(1)問題提示を工夫するとともに考えをもつのに必要なポイントを先に出すことによって、主体的に学ぶ意欲の高まりが見られた。また、課題が焦点化され、児童が何を考えればいいのかが明確になることが分かった。

(2)学習方略活用を積み重ねることによって、個に応じた学びが可能になるとともに、一人では得られない学びの深まりにつながると分かった。

７　研究の課題

(1)その気にさせる導入と学習方略の活用で実現した学びの楽しさや児童の主体性向上、考えの深まりが学力の向上につながっていく必要がある。

(2) 子どもの実態の理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導、支援することを通して個別最適な学びを進める力を育成したい。

（記入者　大嶌　禎子）